

横 葺 工 法

中 間 検 査

責任施工業者				
工 事 名				
区 分	チェックポイント	良	否	改善方法
材 料	板厚・素材は、仕様書通りのものが使用されているか。			
	構成部材及び構成部品は、指定のものが使用されているか。			
墨 出 し	割付け、墨出しは、施工図通り正確に行われているか。			
下 地 の 状 態 及 び 下 葺 き	垂木の間隔は、500mm以内になっているか。(鋼製立母屋の場合はこの限りでない)			
	勾配は、3/10以上となっているか。			
	コンクリート構造の場合、横葺本体を葺いていくための金属垂木等が、アンカーボルトや適当と思われる釘等で強固に固定してあるか。			
	下葺き材は、アスファルトルーフ940以上のものが使用されているか。			
	下葺材の重ねは、100mm以上で横貼りとなっているか。又、縦貼りの場合は、200mm以上となっているか。			
施 工	壁立上り部分には、雨漏れ対策を充分考慮した捨て板が取り付けられているか。			
	割付け、墨出しに従って葺き出されていて、通リよく取り付けられているか。			
	葺板は、垂木・立て母屋等に釘・妥当うなタッピングビス等で固定してあるか。			
	葺板の継手部分は、捨て板を使用して十分な結合がされており、且つシーリング材が充填されているか。			
	継手の位置は、千鳥にしてあるか。(特に指定のある場合を除く)			
適 用				

検 査 日	年 月 日	再 検 査 日	年 月 日
-------	-------	---------	-------

上記項目に従い検査を行ったことを認めます。

年 月 日

株式会社 全日本建築板金保証センター北海道支部長 殿

支部長	委員長		事務局

検 査 員 氏 名

検査員資格番号

横 葺 工 法

完 成 検 査

責任施工業者			
工 事 名			
区 分	チェックポイント	良	否
軒 先 納 め	唐草の形状は、軒先の状態を考慮して曲げ加工してあるか。		
	軒先唐草は、下地垂木間隔に合わせ、長さ32mm程度の釘又は、軸径39mm以上のドリリングタッピングねじ、若しくは、これと同等以上のもので止めてあるか。		
棟 納 め	棟包みは、棟板に32mm以上の釘で500mm間隔以内で止めてあるか。(防水テープでも可)		
	棟包みは、屋根材の面まで折り下げているか。		
	継手は、ハゼ組としてあるか。		
取 合 部 の 押 え	雨押えの水下側の納めは、棟包みに準じてあるか。		
	壁取り合い部分は、高さ120mm以上立上げてあるか。		
	登り雨押えは、シール材を入れ、ハゼ組となっているか。		
シ ー リ ン グ	各部分の必要な箇所へのシールは出来ているか。		
そ の 他	屋根材の表面に傷はないか。又、タッチアップ等の補修がされているか。		
	屋根の上や関係する場所の清掃は、行われているか。		
適 用			

検 査 日	年 月 日	再 検 査 日	年 月 日
-------	-------	---------	-------

上記項目に従い検査を行ったことを認めます。

年 月 日

株式会社 全日本建築板金保証センター北海道支部長 殿

支部長	委員長		事務局

検 査 員 氏 名

検査員資格番号